

箱猫はいつも夢を見た

山口 香織

淳史

理系の大学4年生。大学院に進む予定の理学部の生徒。物理学専攻。一人暮らし。要領よく、他人には好かれやすい、一見魅力的な人物。空気を作ることが上手い人。

弥生

体育会系の大学4年生。中学校の先生を目指す教育学部の生徒。体育学専攻。一人暮らし。ジャージ率が高いけど、細かい所のおしゃれをきちんとしている。空気を読むことが出来る人。

祐樹

文系の大学4年生。就職が決まっている文学部の生徒。心理学専攻。地元でずっと生活している。昔からマスターとは顔なじみ。他者に強く出れるタイプではない。マイペースでふわふわしてるが、人をよく見てはいる。空気にのまれる人。

けい

高校2年生、祐樹の親戚。元気っこ。地方から遊びに来ている。祐樹のことを兄のように慕っている。空気？ 何それ美味しいの？

マスター

地域に根付いた喫茶店の二代目マスター。アラサー。傍観者。

暗転。無音。

コトリ。箱が落ちた硬質で綺麗な音がする。

明転。

喫茶店の店内。ステンドグラスのついた窓から、きらきらと陽が差し込む。

店内では若い男女がテーブルに座っている。机の上にはプリントや本が広げられている。弥生はプリントを見ながらノートに書き込んでいる。…ように見えるが、あまり進んでいる気配がない。そんな弥生を、淳史はスマホを操作したりしながら手持無沙汰に見守っている。机の端には空になったモーニングセットの皿があり、食後だということが分かる。

淳史は流行りを適度に取り入れた、イマドキの大学生の服装、弥生は朝練後のジャージ姿のままではあるが、ジャージやスニーカーの合わせ方にさりげないセンスの良さが現れている。

マスターが食器を下げようと近づき、床に転がっている箱に気づく。

マスター

こちら、落とされましたか？

2人、首を振る。見覚えのない箱を手に取り不思議そうにし、マスターは箱をカウンターに置く。

マスター

そろそろお飲み物、お持ちしますね。

マスター、食器を持ち、奥へ去る。

淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生

祐樹、来なくね？

食べ終わっちゃったね。

朝がいいって言ったの、祐樹なのにさ。

そうなんだけどさ。でもまあ、祐樹だし。

そういう所あるよな、あいつ。

そういう所？

なんか、キャラで許されてる感じ。

あー……。うん、否定はしないかな。

得なヤツだよなー……。(間)なあ、さっきから進んでるの？ それ。

進んでない。

だよなあ。

マジ、意味分かんない。もう忘れたよ、古文の読み方……

自業自得。

そうなんだけどさー

それなりに書けばいいんだって。

ねえ、この、シュレディンガーの猫って何？

は？ 何でシュレディンガー？ それ全然関係ないじゃん。

いや、知らないよ。講義で出たんじゃないの？ 書いてあるじゃん。(プリントを見せる)

あー……。庭の話の辺りか……。なんだっけ。多分聞いてて思い出したんじゃないかな。こっちの専門でやってて。

で、何？

その課題には関係ないよ。

えー、こういうの1回気になっちゃたらさ……。なんか、気になるじゃん。

変じゃね、日本語。

弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史

細かいなあ。もう疲れたんだよー

気分転換しかしてないだろ、さつきから。

けち。

けちじゃない。弥生さあ、今日集まった理由分かってる？

卒業ライブと旅行の打ち合わせ。

それと、その課題の話だろ？

あー、聞こえない。

聞こえないじゃない。その単位取れなかったら、卒業できないんだからさあ。

はいはい。

はいは1回。

はい。

あー、もう、こんな弥生のお守じゃなくて、可愛い女の子とモーニングコーヒーを飲みたい人生だった。

モーニングコーヒーなら今から来るじゃん。

違うんだよ、こういうのじゃないだよ。

第一さあ、目の前にこーんな美人がいるのに、失礼じゃない？

…ウケる。

ウケるなし。

あー、彼女欲しいなー、バンド組んだらモテると思ったのになー、結局モテないまま、もう卒業だよ…

何なの急に。

そんな曲あったじゃん。

あったっけ？

アイドルの曲でさ。うちの研究室、ゼミ生がBGM選べるんだけど、昨日はアイドルメドレーでさ。

えー、楽しそう。

淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生

皆でテンション上がりすぎて、夜中に合いの手、めっちゃ叫んでた。
何それ、バカじゃん。
さすがに守衛さんに怒られたわ。
やりすぎ。ホント、変わった人多いよねー、そっちの研究室って。
あれ？他に何話したっけ？
初めて研究室行った日に、急に先輩が泣きながら現れて、カホン演奏して走り去って行ったって。
あったなー、そんなこと。よく覚えてるな。
記憶力は良いもので。
古文の読み方は忘れてるのに？
うっさい。てゆーか、カホンって何だっけ？
…バカなんですか？
え、酷くない？ それ、普通の人、知らなくない？
弥生は一応バンドマンだろ？ 打楽器くらい知ってどこ？
ドラム以外興味ないし。
今年の学祭で使ってるの、一緒に見たじゃん！
え、あー、あの箱？ 箱に座って叩くやつ？
いや、そうだけど、確かに箱だけどさ。なんかホント…、弥生、興味ないこと覚えないうな。
名前と一致してなかったただけだっけ！
前もそうだったけどさ、
（淳史を遮りつつ）で、で？なんでその箱が研究室にあるの？
昔、先輩が拾ってきたらしいよ。いりびたること多いから、気分転換につて。
へー、拾って…、カホンなんか捨ててある？
あるんじゃない？あー、なんかどっと疲れた。朝から、もう、弥生のせいだ。

弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史

私のせいだけじゃなくない？ 夜中に合いの手なんか叫んでるからでしょー？

あれはバカだったなー

てゆーか、また徹夜？

うん。

そのうち、身体壊すよ？

終わらないと寝れない。

寝てからの方が、効率よくない？

深夜の方がはかどるんだよ

それは思い込みでしょ。

んなことないって。でも深夜って、なんであんなテンション上がるんだろな？

あー、それは分かるけど。

乗って書くけど、後で見直すと文章おかしかったり。

ダメじゃん。

弥生はしないの？ 研究室に泊まり込みとか。

しないよ。こっちは身体が資本だもん。

脳筋。

うっさい。

だから単位落とすんだよ。

それは関係ないでしょー？ あの年は……、ちょっと、あれだったんだよ。

……あー、あれか……、まあ、なあ……

うん……

でもさ、落としたの仕方ない。けど、そのあと単位、数え間違えるなよ。

それはまあ、ちよっとしたうっかりじゃん？

淳史

弥生

淳史

弥生

淳史

弥生

淳史

弥生

淳史

弥生

うっかりで卒業できないとか、やべえじゃん。俺たちと確認しなかったら、留年だったぞ？

ほら、結局、何とかなりそうなんだし。

それ、誰の過去問だったっけ？

：

誰のおかげでしたっけ？

淳史様のごさいます。

敬いたまへ。これだから、弥生はなー

はいはい。

はいは一回。

はいはい。

カタンと箱が落ちる音がする。

え、なに？

え？

何か聞こえた？

いや、別に？ どうしたの？

いや…、何でもない。

マスター、お盆にカップを2つ乗せて2人の前に持ってくる。

お待たせしました。カフェオレはちみつ多め…と、こっちがブレンドです。

マスター

淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 弥生

マスター、カフェオレを弥生に、ブレンドを淳史の前に置く。淳史は何も入れずにブラックでブレンドを飲む。

太るぞ？

朝はいいんですー。はちみつは健康に良いし。運動した後だしねー

言い訳。この苦みがいいのに。

(スマホのバイブに気づく。) …あ、来た。今家出たって。

今かよ。

…？ なんか、1人連れてくるって。

誰？

分かんない。既読つかないし。

何してんの、あいつ。

まあ、祐樹だし。

なあ、前から思ってたんだけど、弥生って祐樹には甘くない？

え、そんなことないよ。

俺にはキツいのに。

(いたずらに) しいていうなら、人徳の差じゃない？

何それ、ひどくない？ 俺に人徳がないってこと？

(淳史の顔見て) …ハハッ。

弥生？

人徳とか、ウケる

ウケるなし。

まあ、多少はあるんじゃないの？

ひっで。

弥生

弥生

淳史

弥生

淳史

弥生

淳史

弥生

淳史

弥生

淳史

弥生

淳史

弥生

淳史

弥生

淳史

間。

やっぱり、マジでそういうのなの？

何が？

祐樹とさ。やっぱ扱いが特別じゃん？

そうかな？ 淳史にも同じように特別扱いしてると思うけど？

そうなんだけどさ。

だってメンバーだよ？ そりゃ特別になるじゃん。

まあ、なあ。

別に、これくらい、普通だよ。……ふっー、ふっー。

そうかな？

そうだよ。

そっか……。あれだよな、祐樹はなんか構いたくなるキャラだしな。ゼミの女の子とも仲がよさそうだし。

たまにゼミ室に居づらいつて言ってたけどね。せきららトークとか。

それでもいいなあ。可愛い女の子に囲まれて。うち、野郎ばっかだぜ？

うちもだよ。男ばかりなのは。

それも気楽だけど、たまには可愛い女の子とご飯したいよなー。こんなむっさい弥生とばかりじゃなくてさあ。

……言ってる、言ってる。

突然、カタンと足元に小箱が現れる。

え？

淳史
弥生
淳史
弥生
弥生

マスター
祐樹
弥生
淳史
祐樹
淳史
弥生
祐樹

ん？
何か落ちてきた。
さっきの箱？
似てるけど、別のみたい。
置いとけば？
うん：

弥生、カウンターの箱の上に、拾った箱をとりあえず積む。
ドアが開き、祐樹とけいが入ってくる。祐樹は、清潔感はあるがどこか人畜無害で冴えない服装、けいは、田舎の女子高生なりの精一杯のオシャレで可愛い恰好を身に着けている。

いらつしやいませ。
おはよう！
おはよー
おはよう。遅いぞー
いや、ごめん！ 本当、ごめん。
許さん。
ごめんて。昨日バイト遅番だったら、全然起きれなくて…
また？ 最近バイト多くない？
ライブも卒業旅行あるからね。あ、で、ごめん、こっちはいとこのけい。今日案内する話だったの、ちよーっと忘れてて。
案内？
そう、大学の普段の様子を見たいって。待たせるのも悪いし、良ければ、ちよつと話も聞けないかなーって思ったんだけど…

淳史
弥生
けい
淳史
けい
弥生

マスター
祐樹
けい
マスター
マスター
けい
マスター
けい

お前なあゝ、遅れておいて。

まあまあ、いいじゃん。ちよつとくらい。(けいへ) ねえ？

ゆう兄が急にごめんなさい。会うのがお2人だっていうから、私も！つてつい：
え？

ゆう兄からライブの写真見せてもらいました！ めっちゃかっこよかったです！

……まあ、来ちゃったんだし、仕方ないか。……(祐樹へ) 何見せたんだよ。テレるじゃん。
(けいに) ごめんねー、こっちは無視していいよ。ここ、ちよつとどかさね。

弥生は、淳史をカウンターへ追いやり、机の上の紙類を寄せてスペースを作り、けいをテーブルに招く。

けいと祐樹はテーブル、淳史と弥生はカウンターへ座る。

マスターがお冷とメニューを持ってくる。

いらつしやいませ。祐樹君はいつものですか？

うん、いつものお願いします。けいはどうする？

えー、ちよつと待って。

マスター、今日はプリンありますか？

ありますが、まだ少々お時間かかります。大丈夫ですか？

けい、このプリン美味しいから。待っても食べる価値あるよ。

えー、気になる！ 何が違うんですか？

地元の新鮮な卵を使用した、昔ながらの硬いプリンをお出ししています。

へー、硬い。

ええ、この地元の子はみんな、ご褒美で食べた特別なプリンなんです。

ゆう兄も？

祐樹

弥生

祐樹

けい

祐樹

けい

祐樹

けい

マスター

けい

祐樹

けい

祐樹

けい

マスター

祐樹

弥生

淳史

そうだよ。たまにオヤジが連れてきてくれるのが楽しみでさ。珈琲と煙草とクラシックが流れてて、なんかいるだけで大人になったみたいで嬉しかったな。

へえ、そうだったんだ。

言わなかったっけ？

えー、気になって来た。

試す？

時間は大丈夫？

大丈夫。俺も1つ頼むから。

じゃあプリンと…、飲み物は…（マスターへ）何がオススメですか？

そうですね。やはり自家焙煎のオリジナルブレンドがオススメです。当店のブレンドは程よい苦みで、プリンにもよく合

いますよ。

うーん…、珈琲か…

あれ？ まだ飲めないんだっけ？

そんなことないもん。もう飲めますー。マスターさん、珈琲。ブラックで。

別に悪いとは言っていないだろー？ 好きなの飲んでいいって。

いいの。

はい。じゃあ、いつものとブレンドがお1つずつ、プリンがお2つですね。少々お待ちください。

マスター、奥へ去る。

けい。改めて、そっちは弥生、こっちが淳史。

初めまして。

どうも。

けい 弥生
けい 祐樹
祐史 祐樹
祐史 祐樹
弥生 弥生
けい 祐樹
けい 祐樹
弥生 弥生
けい 祐樹
祐史 祐樹
弥生 弥生
けい 祐樹
けい 祐樹
弥生 弥生
けい 祐樹
祐史 祐樹
弥生 弥生
けい 祐樹
けい 祐樹
弥生 弥生
けい 祐樹
祐史 祐樹
弥生 弥生
けい 祐樹

本当、急にすみません。でも、酷くないですか？ 前から約束してたのに、会って一言目が「なんでいるの？」ですよー！
それは酷いねー
いや、昨日までは覚えてたつもりだったんだけど…
今日の打ち合わせ設定したのは？
一週間…前だっけ？
忘れてるじゃん。ホント、祐樹らしい。
まあなー、祐樹だもんな。2人は仲いいんだね
小学生のころは毎年夏休みに、ゆう兄がうちに預けられてたんで。
けいちゃんは今高校生？
はい、今2年です。
今日明日と文化祭の振り替えなんだってさ。こいつ、大学見学とか言ってるけど、本当の目的はランドだから。
違う、シーだって。それにちゃんと大学も見学するからいいの。
もう大学決めているの？
まだ全然です。正直、学部とかよく分からないし。
ほら、ここなら何でも聞けるよ。理系、文系、体育会系。みんないるし。
あと、いい見本もな。
それ、言わなくてもよくない？
見本？
単位落とすとどうなるかってのさ。
あー。その、弥生がやってた課題、本当は1、2年のうちに取っておく講義のなんだよ。
え、4年生なのに？
単位って取らなきゃいけない数が決まっているの。基礎単位っていうのを2年までに取り切って、後は専門に集中するのが普通なんだけど…、ね。

淳史 祐樹 けい 弥生 淳史 弥生 祐樹 弥生 弥生 淳史 弥生 祐樹 弥生 けい 弥生 けい 祐樹 弥生 淳史 弥生 淳史

念のためって3人で数え直したらこれだよ。

たまにやっちゃう人いるんだよね。就職決まっても、それでダメになったりするって聞くし。へー、難しいんですね。

いや、大体の人はちゃんと出来ているから。俺も、祐樹もさ。出来ない人の方が割とレアだって。淳史だって単位落としてたじゃん。

あれは半分が落とす講義だから。それに、弥生でも取れそうな講義探したのは誰だっけ？

これに関しては、祐樹ですー

俺も色々案出したらろー？

あ、そうだ。これ、俺の時の過去問とノート。(鞆からプリント等を取り出す)

ありがとうー！

へー、どんなのやってるんですか？

これは、古今和歌集をベースに現代の作品にどのような影響を与えているか。見立てとか、引用についてとか。えー、大学になっても古文あるんですかー？

選べばだよ。色々あるから。

正直もう忘れてたよね…

だから受験直後で覚えてる1、2年のうちに、みんな取っちゃうんだよ。

しようがないじゃん。落とした単位のこと忘れてたんだから。

忘れるとか。ホントダメだなー、これだから弥生は。

どこかで箱が落ちる。それにけいが気づき、拾う。

マスターが珈琲を持つてくる。

お待ちせしました。こつちがカフェラテはちみつシナモン仕立てと、ブレンドです。苦くて飲めないようでしたらミルクお

けい
弥生
マスター
弥生
マスター

マスター
けい
マスター

けい
祐樹
けい
祐樹
けい
祐樹
けい
祐樹

持ちしますので、声をかけてくださいね。

ありがとうございます！ あの、これ。(箱を差し出す)

あ、さつきも、別のが。(カウンターの箱を示す)

何でしょう？ 3つ目ですか…

誰かのいたずらですか？

分かりません。危ないものではなさそうですが…

けい、箱を振ってみる。空虚な音がする。

とりあえず、置いておいてもらえますか？

はい。

それでは、ごゆっくりどうぞ。

マスターは奥へ戻る。けいは箱をカウンターの箱の上に重ねて、席に戻る。

てか、ゆう兄、ブラックじゃないの？

苦いの、あんまり好きじゃない。

えー、ずるい。人には言っておいて。

勝手に意地張っただけじゃん。

しかも、はちみつとか。好きだっけ？

はちみつは健康に良いから。

へー、お母さんみたい。

含みある言い方だなあ…、ダメそうだったら交換する？

けい 大丈夫。何事も挑戦あるのみ！（一口飲む。）……………これが美味しいの？
淳史 飲みなれると、この苦さが病みつきになるんだよね。
弥生 かつこつけているだけだよー？
淳史 うっさい。
けい そういえば、ゆう兄は楽器始めたの、大学入ってからだよ。お2人も大学からなんですか？
弥生 そうだよ。
淳史 俺は高校から。その頃は1人でギター弾いてただけだけど。
けい あれ？ ゆう兄がギターじゃないの？
祐樹 あれはベース。
けい ベース？
弥生 興味ないと見分けられないよね。
淳史 そうそう。見分けられないよなー、弥生もなかなか覚えられなかったもんなー
弥生 またその話、ひっぱりだす。
祐樹 さすがに、あれは酷かったよね。
弥生 祐樹まで…
けい そんなに分かりにくいのか？
祐樹 ちゃんと見れば、大きさも弦の太さも違うよ。あと分かりやすいのは、ギターは弦が6本で、ベースは4本とか。
淳史 弥生、ライブハウス行ったときに、「さっきの演奏素敵でしたー、特にギターがー！」ってベースリストに声かけてるんだぜ。
弥生 あれは…、1年のときだったから…、まだ全然分かんなくて…。ホントごめん。祐樹がフォローしてくれて助かった。
祐樹 あれでフォロー出来たのかな。相手、微妙な顔のままだったけど。
弥生 なってた、なってた。淳史は後ろで大爆笑してるだけだったし。
淳史 いや、あれは笑うだろ。
弥生 ギターとか分からなくても問題ないし。叩けるものにしか興味ないし。

淳史 祐樹 弥生 けい 弥生 祐樹 弥生 けい 弥生 祐樹 弥生 けい 弥生 祐樹 弥生 けい 弥生 祐樹 弥生 けい 弥生 祐樹 弥生 けい 弥生 祐樹 弥生 けい 弥生 祐樹

祐樹は、そのままでもいいんだよ。
祐樹まで動いたら絵面がうるさい。

絵面？ そうかな…

弾いたり、動いたり、大変そう。ドラムもずっと叩いてるのって疲れそうですよー

まあ疲れるけど、体力には自信あるよー、私、中高と陸上部でずっと長距離走ってたから。今も走ってるし。

えー、凄い！

弥生が走っているの、かっこいいんだよ。前、シティマラソンにみんなで開催したんだけど、俺も淳史もあつという間においてかれて。気が付いたら、ずっと遠くを、凄いスピードで走ってるんだよ。

気づいたら全然ついてきてないんだもん。ビックリしちゃった。淳史もあの日は全然だったよねー

ちよつと調子が悪かっただけだよ。

いやー、俺は万全でも弥生と一緒にペースでは走れないよ。

大丈夫だって。練習したらタイム伸びたじゃん。

そう！ 弥生、教えるのが上手いんだよ。次の年にも出ようってトレーニングしたら、すつごく伸びてさ。弥生のアドバイ

スが本当に的確で！

えー、弥生さんすごい！

まあ、教えるのはね。勉強したから。先生になるの、ずっと夢で。

先生？ あ、教育学部？

そう。来年からは中学で体育の先生。

体育は倍率高かったんでしょ？

そこそこ。運が良かったよね。

弥生が先生だったら、俺も体育、好きになったのにな。

えー、私も教わってみたいなー

ありがと。何かテレるね。そう言われると。

淳史

そんな褒めることないって。ただ、脳筋なだけだろ。ほんと、ドラム叩いてるときの弥生ってさ…

箱が落ちる。淳史は会話を続けようとしていたが、淳史の携帯が鳴り、止まる。

淳史

ごめん、研究室のヤツからだ。ちよつと出てくる。

淳史、電話を手に店の外へ出る。
間。

けい

なーんか、あれだよね。

祐樹

何が？

けい

脳筋とか酷い。

祐樹

あー、淳史？ うん、まあ、ねー

けい

弥生さんに対して、失礼じゃないですか？

弥生

大体あんな感じなんだよね、淳史って。悪気はないんだけど…

祐樹

悪いヤツじゃないんだけどね…

弥生

クチがよろしくない。

祐樹

ちよつと…、距離感が近いっていうのかな…？

けい

距離感？

祐樹

うん。身内って思うと扱いが雑になるっていうのかな…？ ほら、バンドでずっと一緒にいるからさ。甘えてる感じ？

弥生

あ、甘えてるって分かる。ホントに悪気ないし、親しみのつもりなんだよね。それは分かっているからさ、こっちも。

祐樹

あと目立ちたがり屋。

弥生

ギターだからね。

けい 弥生 けい 弥生 けい 弥生 弥生 弥生 弥生 弥生
 祐樹 祐樹 祐樹 祐樹 祐樹 祐樹 祐樹 祐樹 祐樹 祐樹
 弥生 弥生 弥生 弥生 弥生 弥生 弥生 弥生 弥生 弥生

えー、ただの、無神経なヤツじゃないですか。

けい。

すっごい、身も蓋もないことを…

やだ、マジで意味分かんない。大学生になっても、ああいう人いるんですね。

人間変わらないよ。高校生も、大学生も。…まあね、確かに失礼ではあるんだよ。たまに。ちょっとだけね、イラつとすることもあるけど…、受け流すのが大人だと思うし。

…

それでも、淳史。いい所もいっぱいあるからさ。

…うん。いいヤツなんだよ。助けられることも多いよね。

えー、例えば？

例えば？ えーっと…、

そこは即答してあげようよ。

いや、ちゃんとするんだよ、いい所。でも改まっちゃうと、なんて言っていないか分かんないじゃん。

いっぱいあるじゃん。私たちがバンド組むきっかけになったのも淳史だったし。

あ、そうそう。あれ、凄かったよね。

凄かった？

この3人でバンド組んだのって、2年の途中からなんだよね。1年のころは、3人とも違うバンド組んだの。そしたら、ちよつと…、色々あって、私のいたバンドがぐちゃぐちゃになっちゃって。

ぐちゃぐちゃ？

ガールズバンドだったんだけど、他のメンバー全員がサークルの同じ先輩と付き合ってたらしくって…

二股？

三股。

やばい！ ギタリスト？ ギタリスト？

祐樹 けい 祐樹 けい 祐樹 けい 弥生 弥生 祐樹 けい 祐樹 弥生 祐樹 弥生 祐樹 弥生 祐樹 けい 弥生 けい 祐樹 弥生

どんだけギタリストに恨みがあるんだよ。

別に。元カレがギター弾いてただけ。

はあ！？ 聞いてない。

言っていないもん。

おにーちゃんは許しませんよ！

ゆう兄、うるさい。で？ で、どうなったんですか？

どうって、もうバンドとして成り立たないよね。ギスギスしちゃって。割と緩く活動してた子たちだったし。そしたらその

うち、相手のバンド内でも、もめ始めて。

そっちが、俺がいたところでさ。どうも他の先輩がもめてるメンバーの1人に片想いしてたとかで。

やばい！！

なんか、それぞれ微妙に時期はズレてたらしいんだけど…、やっぱり知っちゃうと…、ねっ！

ひゃー！ 泥沼？ ちょー怖い。

うん、どろっどろ。

もう、本っ当に大変だったの。1人メンタル壊しちゃったりして。

救急車騒ぎになったんだよね。

元々ちよつとメンヘラ気味だったし。

女の子のマウン트의取り合いつて怖い…

一緒にしないでほしいな、あの子だけだよ。今カノのマウントが、もうね。

うっかり部屋に全員揃った日には…、地獄だったよね。

ここ南極でしたっけー？ みたいな。他の子たちに見せつけて、あおる、あおる。

こわーい。でも見てみたーい。

見なくていいよ。純粹でいてほしい…

(笑) でね、そんなときに、その状況から抜けるきっかけ作ってくれたのが、淳史。

けい

弥生

祐樹

弥生

祐樹

弥生

祐樹

弥生

祐樹

弥生

けい

弥生

祐樹

弥生

祐樹

弥生

えー、凄くないですか！ どうやったんですか？

学祭の企画で、バンドをシャッフルすることを提案してくれたの。

さりげなく、もめてる人たちを怖い先輩のところとか、活動していかない幽霊バンドに混ぜて行って、主力メンバーから離していった。それだけ。

あの子たち、結局相手より目立ちたい、構ってほしい、ってだけだったからね。段々他に依存先見つけて遠のいていったよ。上手くみんなを誘導して、文句言わせなかったよね。まあ、文句を言いそうな人を遠ざけたわけだし。

あとはもう、好きにやってくれて感じて。

そうは言いつつ、弥生はまだ面倒みようとしてたじゃん。

だって来るんだもん。断れないよ。

それで「俺たちだけを見てろ。今のバンドに専念しろ。」って淳史が入って食い止めてさ。

学祭では企画がウケて大盛り上がり。問題の子たちはサークル辞めたし、バンドはそのまま。すべて丸く収まりましたって感じ。

凄い。淳史さん、大活躍だったんですね。

そう、大活躍。あの時の淳史は…、ホント、ヒーローだったよ。

あれからサークル内でも一目置かれるようになったしね。…弥生は大変だっただろうけど、この3人でバンド組めたから、俺はすごく嬉しかったな。前のバンドより、もう全然、ずっと楽しいし。

それは、私も、かな。今のほうが全然いい。もうホントに、あの泥沼は結構トラウマだよ。……なんで、あんなふうになっちゃうんだろね…

…元々は仲のいいメンバーだったもんね。

ホント、狭い範囲での恋愛とか、やめてほしいよね！

ドアが開き、淳史が戻ってくる。

祐樹 祐史 弥生 淳史 けい 祐樹 淳史 弥生 弥生 淳史 弥生 祐樹 祐史 けい 祐樹 淳史 弥生 けい

お帰り。どうしたの？

なんか研究室のカギがなくて、入れないんだって。

大変じゃん。

たまにあるんだよ。多分誰かがカギを持って帰っちゃったか、立てこもってるんだと思う。

立てこもるの？

そう。研究が上手くいかなくてヤケになってるとか…、ちょうど院試験が上手くいかなかったヤツもいたし。

そんなによくあること？

うち、変なヤツが多いから。

どうするの、それ。

とりあえず全員に連絡してみて、ダメなら教授待ちかな。本当に立てこもっているのかも分からないし…、あ、これだよ。

何が？

シュレディンガーの猫。

シュレディンガー？

たまにアニメとかで使われているよね。そっちの専門だっけ？

そう。本当は量子力学の思考実験なんだけど、名前のインパクトが強いから題材にされやすいんだよな。こんなん使うヤツ、

かっこいい名前見つけたから使ってみたってだけだろ。浅い中2っぽい考えのさ。ちゃんと理解してから使えばいいのに。

そうなんだけど、内容難しいよね。文系なりに一応解説書読もうとしたけど、3ページで挫折したよ…

どんなことなんですか？

えー…？（間）本当にぎっくりとした説明だけど、箱の中に生きた猫と、 $\frac{1}{2}$ の確率で箱を閉じた時に毒が発生する装置を

入れて、放置する。そのとき、箱の中の猫は生きているのか、死んでいるのか、誰にも分からない。箱を開けて、誰かが見

た時になって初めて分かる。箱を開ける前であれば、猫は生きてもいるし、死んでもいる状態が重なっていると考えられる。

ということ。

え、猫かわいそう。全然分かんないし、状態が重なっていると、あり得なくないですか？

淳史

弥生

淳史

けい

祐樹

弥生

淳史

弥生

マスター

淳史

マスター

弥生

マスター

けい

祐樹

けい

淳史

その、あり得ないことを説明するための思考実験だから。実際に猫を殺すわけじゃないし。そういう状況だと仮定して、他の粒子の話の説明しようとしたんだよ。

それをなんで古今和歌集のノートに？
3年前のことだから覚えてないよ。山を見て見立てるとか、観測者って辺りで思い出したんじゃないかな？
観測者？

この場合、箱のフタを開ける人、だよ。箱を開けて猫がどうなっているのか知るには、きちんと見て確認する人がいないと誰にも本当のところは分からないから。

あ、それで研究室に本当に立てこもっているのか、開けないと分からないってこと。
そう。勉強嫌いの弥生にしては、理解早いじゃん。

…うっさい。

箱が転がる。祐樹とけいが箱に気づく。

マスター、近づいてくる、

すみません。プリンがもう少し時間がかかりそうで…。

どうしたんですか？

いえ、ちよつと失敗してしまったようで、中がうまく固まっていなかったんです。

そんなことあるんですか？

どうも焼き時間か設定温度がずれてしまったみたいですね。

あ、これも猫に繋がる？

え？ シュレディンガー？

出して、ちゃんと中を見てみないと分からない。固まっているか、固まっていないか。

おお、確かに。弥生より理解早いんじゃないの。

弥生

マスター

祐樹

…

そうですね。外側から眺めているだけでは分からないことは多いですね。何事も。お詫びによろしければ、飲み物のお替り
お持ちしますよ。

あ、ありがとうございます。じゃあ、まだあるんで、もう少し後で。

マスター、奥へ戻る。箱に気づき、カウンターに積み上げる。

箱とか猫とか。なんか、大学の勉強って難しいですね。

目標があれば、頑張れるよ。

それに、興味ある事を勉強するのは楽しいよ。

だから院に行つてまで勉強するんだもんね、淳史は。

まあな。

大学院に行くんですか？

そう、この大学の院にそのままスライド。

頭いいんですねー

まあ、それほどもあるかな？

大学院かー。全然イメージがつかない。

ゆっくり知っていけばいいんだよ。

うん。

…あ、今日の本題のこと全然話してないね。

卒業ライブの話ね。そっちもどうしようか。

これまでの曲の中から評判良かったのを選ぶか、新しい曲を覚えるか…

俺は新しいのやりたいと思うけど、2人の状況どう？

淳史

祐樹

弥生

祐樹

けい

祐樹

けい

淳史

けい

淳史

けい

淳史

弥生

淳史

弥生

けい

祐樹 卒論の提出自体は1月だから、その後に専念出来れば多分大丈夫。内定先も事前研修とかないし。弥生は忙しいんじゃないの？

弥生 私の方はちよつときついかも…？

淳史 最後だし、ちよつと難しい曲とか挑戦してみたいんだけど。

祐樹 その気持ちも分かるよ。けど、淳史の言うちよつと難しいのつてき、大体ハードなやつじゃん。細かかったり、早かったり。ドラム大変じゃない？

淳史 そうなんだよ。だけど弥生なら、なんとかならない？ 弥生、ドラム譜覚えなくても、曲聞いて感覚でいけるじゃん。

弥生 結構な無茶を言うなあ。

淳史 弥生のドラムセンスに、俺、絶対的な信用持っているからさ。

弥生 えー何それ、ちよつと急にやめてよー

淳史 弥生のドラムってサークル内でもダントツ上手いじゃん。

弥生 どうしたの、いっつも褒めないのに。

祐樹 (祐樹に) そんなに弥生さんって上手なの？

まあね。

祐樹 えー！ 聞いてみたい！

弥生 え、恥ずかしいよ、もう。

祐樹 だから、1回この3人で、弥生のドラムで挑戦してみたくてき。ずっとタイミング狙ってたんだよ。でも、客が呼べそうな曲ってちよつと違うじゃん？ メジャーだったり、盛り上がりそうなのだったり。

祐樹 ハードなのつて、人を選ぶからね。

弥生 でも、せつかくラストだし。1、2曲くらい、どう？ 2人も好きな曲、提案してくれていいし。

祐樹 そんなにやりたいの？

弥生 勿論。この先、二人が就職しちやったら、こんな風に一緒にバンドやれるか分かんないじゃん。これが本当に最後かもしれないんだぜ？

弥生 淳史 祐樹 淳史 弥生 祐樹 淳史 弥生 祐樹 淳史 弥生 祐樹 淳史 弥生 祐樹 淳史 弥生 祐樹 淳史 弥生 祐樹 淳史 弥生 祐樹 淳史 弥生 祐樹 淳史 弥生 祐樹

…そうだね。そんな言うなら… ちよつと頑張ってみようかな。

マジで!? (祐樹を見る) どう?

俺は別に。弥生が大丈夫なら。

やった! ずつとタイミング待っててよかったわ。あの時、わざわざシャツフル提案した甲斐があった。

え?

え?

え?

え、あつたじゃん。固定でバンド組むきっかけになった。(けいに) 実は、サークル内の男女のいざこざで揉めてたことが

あつて、

あ、さつきゆう兄から聞きました。淳史さん、かっこよかったつて。

そうなんだよー、俺が頑張つてさ、

いや、あつたけど。え? あれつて弥生が大変そうだったから、助けてくれたんじゃなかったの?

え? 勿論そうだよ。でも、ずつと提案してみたかったことだからさ、なんか揉めてるから、ちよつといいかなーつて。

ちよつといい…

あの状態なら、解決するのになれがベストだったし。他の手段、なかっただろ?

そう…なのかな…

話を通りやすくなるように色々動いてみたりしたけど…、多少ね。いや、2人とも大変そうだしなーつて思ったのは、勿論

あるよ。

だよ。

あ、でも、そうだったんだ…、へえ。

え、結果的に良かっただろ? 俺のおかげで丸く収まったんだし。

うん、まあそうなんだけど、ちよつと思つてたのと違ったかな? つていう感じ…、かな。

いや、絶対これで良かったつて。メンヘラちゃんにあんなに依存されてたら、弥生まで潰れてたかもしれないじゃん。

弥生

淳史

弥生

淳史

弥生

…そうかな…

それに絶対、弥生の持ち味生かせるのは、あんな生ぬるい可愛いだけのバンドじゃないってよりも、ちよつと難しかったり、ハードな曲だとずつと思ってたからさ。祐樹のベースだってそうだよ。あの先輩たちに囲まれて大変そうだったじゃん。

…そのバンドが、私は好きだったんだよ。淳史の好きなハードなのは、そこまで私は好きではないし。…あ、いや、勿論いい曲なのは分かるよ？

えー、あの良さが分からないとか、これだから弥生は分かかってないな！別に、分かってるよ。

箱が落ちる。けいが気づき拾う。

他にも会話をしながら弥生が傷つくたび、箱がこぼれるように落ちていく音が響く。

けい、その中からいくつかを大切に拾い積み上げていく。

祐樹

淳史

けい

祐樹

淳史

けい

祐樹

けい

弥生

けい

まあ、ほら。好みは色々だからさ。俺もちゃんと分かっているかっていったら、よく分かかっていないかもだし。いや、でもさあ、名曲だけ。名曲。あれが分からないって人生損してるって。…音楽って難しいですよ。なんか、方向性の違いで解散！とかもよく聞くし。あるよ、あるある。サークル内でもあったよ。（淳史へ）ね！

え、あ…、まあ、確かに、好みって色々だもんな。…あ、けいちゃんの今日の服、似合っているよね。そういうのいいよね、女の子らしくて。

え？ あ、ありがとうございます。せつかく都会に遊びに行くし、頑張ってみました。

けいは昔からオシャレのこだわりが強いよな。昔も、この靴下じゃなきゃ外出ない！って大泣きしたり。

ちよつとそれ、いつの話？ ゆう兄、もう止めてよ！

けいちゃんは、センスがいいんだね。

普段はそこまでじゃないですけど、こういう時くらい楽しみたいじゃないですか！ 気合入りますよね！

弥生 けい 淳史 けい 祐樹 淳史 けい 淳史 けい 祐樹 けい 淳史 弥生 淳史 弥生 淳史 祐樹 弥生 淳史 祐樹 弥生

やめてよ、そういうの。

え、いや本当にそういうんじゃないで、たまたま見かけたことがあって。弥生は他の友達と一緒にだったから、声をかけなかつたんだけど。

へー、俺だけ見てないとか、残念だなー、ずるいなー、祐樹だけ。

本当にたまたまだから、ほんと。

デート？

違うって。友達と遊ぶのにオシャレしちゃダメなの？

いや、あまりにも珍しいってただけだって。

練習がなければ、そういう日もあるよ。

え、何？ 女装の日？

もうダメ。マジでむかつく。

けい、ちよつと待て。

ゆう兄、うるさい。さっきから何なんですか、弥生さんのこと。この人、マジでむかつく！

え、なんで？ いや、だって、俺と弥生の仲じゃん？ 別に本気で思っている訳じゃないし、

だから何？ 本当にメンタル幼稚園児と変わらないじゃん。

いや、本当に馬鹿にしてるとかじゃないよ？ 俺、弥生のこと、リスペクトしてるって。

どうだか。

ただもつと可愛い服装とか、オシャレとか、したらいいのになーっていう親心なだけだから。(祐樹へ)なあ？

いや、その…

その、親心って何様。なんで自分のほうが教えてあげる立場だとか思ってるの。

いや、だって…

弥生さん、オシャレじゃん!!!

けいちゃん。大丈夫だから。

けい 弥生
けい 淳史
けい 祐樹
弥生 弥生
けい 淳史

淳史 弥生
弥生 弥生
祐樹 弥生
弥生 弥生

でも！！

ホント、大丈夫。分かっているから。

弥生さん…

だろ？

分かっている。

けい。

そうだよ。いつものことだから。

いつもだからって、何でもいいわけじゃないです。

そんなにけいちゃんが怒ることないって。だって、別に、弥生なんだし。

弥生、カウンターに積み上げた箱を一気に崩す。

店内に箱が崩れた音が響く。

無音。

弥生、唐突に淳史のブラック珈琲を飲み干す。

え、俺の…

…にっが。

弥生？

ごめん。

大丈夫ですか？

ごめんね、気にしないで。いや、なんか、崩さなきゃって思って…、急に…なんだけど。分かんないんだけど…、崩さなきゃって…、ごめん。ホント、なんかよく分かんないや…

弥生
淳史
弥生
けい
弥生
けい
けい

淳史
弥生
淳史
弥生
淳史
弥生
淳史
弥生
淳史
弥生
淳史

気まずい間が流れる。弥生、取り繕いスマホを取り出して、見る。

ごめん。ちょっと急用が出来たから帰るね。

え、弥生？

お金は置いてくから、後、よろしく。けいちゃん、ごめんね。また今度、遊びに来た時に声をかけてね。

え、あ、はい。いいですか？

勿論。

じゃあ、また今度。

弥生、入口へ向かう。

弥生！

何？

あ、その…、そうだ、選曲の話。まだ決めてないだろ？

…いいよ。何でも。

え？

ごめん。2人に任せるから、良い感じの選んで。

そんなの、無責任じゃん。

だから、ごめんって。決めてくれたら、頑張るからさ。

これだから弥生は。

…はいはい。

はいは、いつ…

弥生、淳史が言い切る前に店を出る。

淳史

なんだよ…、なんでも良いって、ホント無責任な話だよな！ なあ…

祐樹

違うよ、淳史。そうじゃないよ。

淳史

何がだよ。

祐樹

そうじゃないんだよ…

淳史

だから、何がなんだよ。

祐樹

もう、ほんと…

けい

ゆう兄、どうするの？

祐樹

どうするって？

けい

…

祐樹

分かんないよ…

祐樹、散らばった箱に目が止まり、1つの箱を丁寧に拾い上げる。

祐樹

けい、ここで待ってて。

けい

はい。

祐樹、急いで店の外へ出る。店内には取り残された2人と散らばった箱のみ。

淳史

なんだよ…

けい

何がですか？

淳史

けい

淳史

けい

淳史

けい

淳史

けい

淳史

けい

淳史

淳史

だって……、笑ってたじゃん。弥生、笑っていたじゃん。ずっと。

……はい。

ずっと、笑ってて。これまでも。これからだって！俺は、ただ、笑っているから……、笑わせたくて……

……多分笑顔って、箱の外側にあるんでしょうね。

箱の外？

言ってたじゃないですか。箱の猫は見てみないと分からないって。生きてるのか、死んでるのか。まあ、この話よく分からないですけど。

箱……

でも猫もビックリしそうですよね。外に出たら、実は殺されかけていた、とか。ただ箱の中で寝ただけかもしれないのに。

猫も夢を見るのかな。

分かんないです。私も映画館とか、8分くらい箱の中にいたら、外に出たときに天気が全然違っていたりして、びっくりして。出た瞬間に、違う世界に出た！みたいな。

淳史、重いため息を1つ。箱を見るが、祐樹のように触ることはできない。

思い切って1つ手に取り、おもむろに開けようとするが、開けられない。ゆっくり机の上に戻す。

間。

……そうだ、研究室……、研究室に戻らないと……、カギ、どうなったのか……

(けいへ) ごめん。祐樹によろしく。

淳史、机の上にお金を置き、外へ出ていく。

けい、見送り、飲んでいなかった珈琲を一口飲む。

けい

……やっぱり甘い方が美味しいよ。(奥に) マスターさん、ミルクください。

けい、珈琲カップを持ち、店の奥へ去る。

舞台に誰もいなくなり、小箱が1つ取り残されている。

長めの間。無音。

突如、箱がガタガタッと動く。

中に何がいるのか、見ることはできず、誰にも分からない。

暗転。

了

この作品はフィクションです。実在の人物・団体とは関係ありません。

この戯曲の著作権は作者に属します。

上演等希望の場合は、作者「Kao_yg0924@yahoo.co.jp」までご連絡ください。